

## 令和4年度 第1回 富谷市総合計画審議会 会議録

日 時：令和4年11月7日（月） 午後3時から午後4時45分まで

場 所：富谷市役所 3階 305会議室

参加者：富谷市総合計画審議会 出席委員14名

：富谷市9名

：事務局4名

：オブザーバー（東向陽台中学校生徒）2名

### 1 開会（司会：企画部長）

### 2 市長挨拶（若生市長）

皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しいところ、令和4年度第1回富谷市総合計画審議会ということで、ご出席をいただきましたことを心から感謝申し上げたいと思います。そして日頃より、皆さん方にはそれぞれのお立場で富谷市の市政運営についてご支援、ご指導、ご協力を賜っておりますことを改めて心より御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

この総合計画は、皆さんご承知の通り、富谷市のまちづくりにおいて最上位の計画でございまして、この総合計画審議会においてご審議をいただいております。富谷市が平成28年10月に富谷町から市制施行する時に、市になることが目的ではなくて、大切なのはどのような市を作るかだということで、当時、町民の皆さんにアンケートをとったり、地区座談会を開いたり、色々なご意見をいただきながら、住みたくなるまち日本一を目指してということで、富谷市総合計画を策定させていただいたところでございます。その総合計画は10年の計画なのですけれども、平成28年から令和2年で5年が終わって、令和3年度から後期基本計画がスタートしたところでございまして、いよいよ今後本格的に様々な取組を進めていくところでございます。

色々な審議会がありますが、どうしても審議会と言うと、ほとんどの自治体で男性が多くて、実際私が就任した時もほとんどが男性のほうが多かったのです。様々な審議会があるのですけれども、やはり男女はもちろんですし、世代もなるべく幅広く色々な声をいただくことによって、正しい市民の皆さんの色々な声が集約されるものと思っております。そういう意味では少なくとも男女半々を目指そうということで、時間はかかったところでございましたが、4位、3位、2位、1位ということで、令和3年度の富谷市の審議会等における女性の割合が全国市区町村の中で第1位になりました。女性の割合が半分になることを目指していたのですけれども、53.1%と女性の委員のほうが上回りました、全国で一番割合が高くなったということでございます。今日の審議会も男女ちょうど半々でございます。そして、やはり世代も幅広く皆さんからご意見をいただきたいということを含めて、富谷市は子どもにやさしいまちづくりを宣言しております。子どもにやさしいまちづくりというのは、子どもの声をしっかりと市政に反映させるということで、毎年11月20日の世界子どもの日にあわせて、小学校8校から子どもたちの代表に出ていただいて、直接私にご意見をいただく「子どもわくわくミーティング」というものを開催しているのですが、この総合計画審議会におきましては、富谷市内の中学生を代表してお二人、天谷さんと阿部さんに今日ご参加をいただいております。前回の審議会から富谷市内の中学生を代表してご参加いただいているところでございまして、今日は市政運営とこれまでの取組について、皆さんから忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3 委員委嘱

(委嘱状交付)

(新委員自己紹介)

### 4 市政運営報告

※資料1により市長が市政運営を説明。

### 5 議事

#### (1) 会長の選任及び会長職務代理者の指定について

互選により、会長に風見委員が就く。

#### (会長あいさつ)

それでは改めまして、こんにちは。只今、大変責任の重い総合計画審議会の会長を拝命いたしました宮城大学で理事、副学長をしております風見でございます。若生市長から本当にご丁寧にこれまでの取組をご紹介いただきましたけれども、本当にきめの細かい政策、また大変幅の広い政策であるということに参加者全員が感じたのではないかと思います。全て講評したいくらいですけれども、時間がないので、思いつくところをお話しますと、皆さんこうして継続の委員も多くございますので、富谷市の素晴らしさを皆さん十分認識しているところがございますけれども、富谷市は何と言っても、今、窓に見える美しい紅葉、自然ですよ。美しい自然がありながら、美しい快適な文化的な住宅地が広がっている。私は田園都市論というものを専門にしているのですけれども、イギリスで100年前に生まれた田園都市論のまさにモデルになるような、素晴らしい自然に囲まれたまちづくりをされてきたことに若生市長並びに職員の皆様に敬意を表したいと思います。そして、色々ありますけれども、とみやども、もはや来場者が30万人に達しようというところで、やはりまちづくりの根幹は、美しい自然と歴史なのですね。これは本物です。自然も本物ですし、歴史も本物なので、しんまちの宿場町の歴史を生かした新しいとみやどのこのステーションが、無事発展していることにお祝いを申し上げたいと思います。私も携わった一人として大変誇らしく思っておりますし、ついでに申し上げますと、先日、日本環境共生学会というところから賞をいただきまして、全国からも高い評価を得ているということであります。これからも持続可能なまちづくりの拠点になっていくだろうという期待の下に栄誉ある学会賞を授与されたということをご報告したいと思います。また、とみふらの40人が起業したということもすごいですね。やはりそれだけ富谷市の中に多くの人材が育っているということで、そういう意味ではまちづくりの基本は何と言っても人材ですので、それを大切にされてきた成果だろうと思います。そしてこの総合計画審議会というものは何かということで簡単に申し上げると、今日ご覧の通り中学生諸君に来ていただいておりますけれども、まさに未来の富谷市の像を議論する場ですので、今日は若い人たちが最後にマイクが回りますから、忌憚のない意見を言っていただければと思います。こうして大人が真面目に未来のことを語っているというのをご覧いただければと思います。言ってみれば総合計画というのは、目指すべきビジョン、フラッグを立てることなので、皆でどのような富谷市が良いのかということをご議論してきて、後期計画がちょうどまとまったところです。今日の議題は地方創生総合戦略の進捗ということになりますけれども、これは総合計画をいわゆる実践した数値資料や進展度合いを見るという意味の通信簿のようなもので、中学生にもわかりますね、通信簿。学期末にドキドキしながら見るという、そういうもので、若生市長や市職員の方はそういう気持ちで今日は席に座られていると思いますけれども。今日は進捗を確かめる会議ですけれども、やはり人口増加をしているまちは少ないので、なぜ人口増加をしているのだ

ろうということを解き明かす必要があって、私なりに思うのは、やはり生活実感だと思うのです。しっかりと政策を立案し、そして実行している。今日は評価をするために見ているのですけれども、やはり住みやすさというのは、その人たちが本当にそのまちで未来永劫暮らしていける安心感を生み出すことなので、そういう意味で今日ご説明いただいたように本当に多岐にわたる政策を立案し、実現されてきた富谷市の皆さんに本当に、これも市民参加でやられていることなので、大変敬意を表したいと思います。また同時に今日お話があったSDGsやカーボンニュートラル、我々が地球規模で変わっていく社会変化にどう対応していくかということも大変重要なことです。そしてまた、私は長らくいつも言っているのですけれども、21世紀は環境の世紀であり、もちろんこのことは事実です。地域の時代だと言ってきました。言ってみれば、今度のコロナのことも、東京にオフィスを持つ必要が無くなっているわけですね。美しい自然があるところで住みやすさ、もちろん仕事づくりは必要ですけれども。そういうものがあることによって、本当に地域に皆が住みだす時代が来ています。そういう意味ではこれからますます人口増加するのではないかと思いますけれども、その準備をしっかりと、インフラを整え、また仕組みを整えるということが、大事なことであろうということで、その取組も総合計画の一部であると思います。

挨拶の最後としては、今日地方創生が出ていますけれども、地方創生というのも斯く斯く日本で作られてきたのですけれども、元々、「ひと・まち・しごと」と言っていまして、人づくり、まちづくり、仕事づくりなので、それを超えた教育、医療、そういうものも含めた本当の意味での住み心地、ウェルビーイングという言い方もしたりしますけれども。そして何より富谷市が優れている部分は、市民参加ではないかと思えます。様々な分野で市民参加を積極的に取り入れられて、そして今日の女性の審議会の委員の比率も簡単にできることではありませんので、そのご苦勞も本当に感じるところでございます。挨拶として長くなったかもしれませんが、富谷市の素晴らしい政策の実現力、それに敬意を表するとともに、我々総合計画審議会の委員としましては、この富谷市の未来を授かっている大事な一人ですので、また今日は中学生諸君にも来ていただいていますので、大いに富谷市の未来についてご意見を活発にお願いしたいと思います。私から就任にあたっての挨拶とさせていただきます。

※ここから、会長が議長となり議事が進行された。

※会長の指名により、職務代理者に佐々木委員が就く。

## (2) 第2次富谷市地方創生総合戦略の効果・検証について

### (風見会長)

それでは、議事の(2)第2次富谷市地方創生総合戦略の効果・検証について、事務局から一括で説明をお願いします。

### (事務局)

これから第2次地方創生総合戦略の令和3年度の実績についてご説明いたします。まずはお手元のA3版のカラーの資料をご準備いただければと思います。第2次富谷市地方創生総合戦略概要版と書かれているものになります。

先ほど来お話がありました総合計画と地方創生総合戦略の関係性について簡単にご説明させてい

たきます。概要版の右下の図をご覧ください。先ほど市長から説明がありました富谷市総合計画が一番頭にありまして、その中で前期、後期ということで基本計画を5年毎に区切って作っております。その後期基本計画が令和3年度から計画期間ということで始まっていますが、その総合計画の中でも地方創生の趣旨を反映した重点的に実施する施策というものを総合戦略として重点事業として位置付けているということでございます。こちら後期基本計画と同様に令和2年度にこの審議会で皆様にご議論をいただいて、令和3年度からスタートしているということでございます。左上に戻りまして、計画期間と管理体制というところになります。期間は先ほど申し上げた令和3年度から終了が令和7年度までということになります。なお書き以降に書いてありますけれども、この戦略の検証機関として、本日、この総合計画審議会の中で皆様のご意見をちょうだいするという流れになります。

それでは、概要版の裏面をご覧ください。こちらが総合戦略の四つの基本目標とそれぞれ数値目標、その数値目標につながる指標となるKPI、重要業績評価指標と呼ばれるものです。それから基本目標毎に取組方針を概要として載せております。それぞれの基本目標について、これから令和3年度の実績についてご説明を申し上げますのでよろしく申し上げます。資料2をお開きください。

#### ※資料2「富谷市地方創生総合戦略数値目標及びKPIの実績について」により進捗の報告

##### (事務局)

以上が、富谷市地方総合戦略の令和3年度の実績になります。

続きまして資料3をお開きください。資料3は地方創生交付金充当事業の実績ということで、地方創生総合戦略を作りまして、その戦略の中で重点的にやっていく事業、こちらに関しては国の交付金を使うことができるようになっております。その国の交付金を活用したプロジェクトにも、計画の段階で数値目標を設けるということになっておりましたので、そちらの数値目標と実績について簡単にご説明をさせていただきます。

#### ※資料3「地方創生交付金充当事業のKPI実績について」により進捗の報告

##### (事務局)

以上、簡単ではございますが、地方総合戦略の令和3年度の実績と交付金事業の実績ということで申し上げました。交付金事業に関しましては、令和3年度でしんまち地区の関係は終わっておりますので、来年度以降はとみやどについての実績のみ、皆さんにご報告させていただくこととなりますので、よろしく申し上げます。以上で説明を終わります。

##### (風見会長)

ご覧いただいたとおりA3の資料にあります5年間の重点事業ということで、総合計画を実践していく時の、指標の設定も難しいところですが、数値目標だけにこだわらずに目標自身の正しさ、あとはその進展具合を見ていただければと思います。それで16時30分までで約30分強でございますので、これから皆様のご意見を一人ずつ回っていくようにしたいと思います。名簿順でいきたいと思っております。短いご紹介とあとはご意見、ご質問等あればよろしく申し上げます。最後に中学生の天谷さんと阿部さんに一言お話いただこうと思っておりますので、よろしく申し上げます。

### (佐々木委員)

それでは私のほうから一言だけお話させていただければと思います。こういった今の地域創生、地方創生と言われる中で、今日大学から3名来ているわけですがけれども、大学との連携とか、あるいは今日も中学生が来ていますけれども、学校との連携がすごく重要になっている中で、ここに書いていないことを含めて、富谷は学校との連携も非常に進んでいるのではないかと思います。これからこういったKPIで見えないところで、そういった重要な取組、あるいは連携があると思いますので、その辺もしっかりと把握していくと更に住んで良いまちということになるのかと思ひまして聞かせていただきました。手短ですが以上とさせていただきます。

### (安齋委員)

私は看護学群の所属です。看護と言うと一般的に病院で看護師さんが患者さんをケアするとイメージされる方が多いかと思いますが、私は地域看護、公衆衛生看護を専門としており、地域の人々の健康づくりを専門にしています。私の専門分野で関心を持って聞かせていただいたのは、認知症学びの講座ですとか、ゆとりすとクラブ等についてです。コロナ禍で多くの事業が中止になり、また高齢化に伴ってゆとりすとクラブなどの介護予防的な事業が継続できず、少なくなっているという現状があります。このような中で、着実に増やしていらっしゃるという点に注目しました。私たちも先日、学生の実習で参加させていただいたばかりなのですけれども、感染対策を徹底しながら地域の方々が活動を継続している姿を拝見させていただきました。地域の人たちと一緒に工夫しながら継続していらっしゃるところに、とても感心し、聞かせていただきました。ありがとうございました。

### (風見会長)

富谷市はコロナの時も大変迅速に対応されたことが記憶に残っていますけれども、まだまだこれからウィズコロナが続きますので、その点しっかりと取り組んでいただければと思います。

それぞれの観点で結構でございます。色々な切り口でお話いただければと思います。

### (石井委員)

皆さん、こんにちは。有限責任事業組合コムワーク・プロジェクトの石井と申します。

毎度自己紹介から始まるのですが、仙台市でいわゆるまちづくりの活動をしておりまして、仙台市中心のまちくる仙台という団体の代表をして、仙台市の様々な会議等にも出席させていただいているのですが、そういう半ば隣のまちの人間からの目で見ますと、非常にストーリーがわかりやすい富谷市さんだなという気がします。元々若生市長が住みたくなるまち日本一ということで総合計画を作られて、それを地方創生総合戦略に落としてやっているということなのですからけれども。多分人口の増加は目的ではなくて、最終的な目的は住みたくなるまち日本一、住民の満足なのだろうなと思ひまして、そういった意味で、本日の資料にもありましたが、去年も申し上げましたけれども、住んでいる方の感想度ランキングが、宮城県でも東北でも非常に高い評価を長年継続しているということは、本当に素晴らしいなと思っております。これは何でだろうなと思ひますと、住みたくなるような色々なまちの施策があって、それで人が増える。人が増えてまたそれを更に魅力を向上するという循環と言うか、うまくサイクルが回っているなと思っております。ただ、市長が目標にしている日本一というのはまだまだハードルが高いと思うのですけれども、2つほど是非お願いしたいと言うか、我々が思うのですが、おそらくこの先も20年、30年と人口を増やすというのは結構ハードルが高いと思ひますので、今までやってきたこういった計画をまさに今まで通りわかりやすく進化させていくという視点が

一つあるなということと、あとは富谷らしさですよ。先ほど風見先生もおっしゃいましたが、国を挙げてデジタル田園都市構想と言っていますが、どこでも田園都市ではないと思います。まさに先ほどおっしゃったこの景色ですよ、美しい自然と歴史があるからこそ富谷市の良さがあるというところを是非守って生かして、それを進化させながら、なおかつ住みたくなるまちを築いていって、結果的に人口も増えていくというような循環を期待したいと思います。

#### (風見会長)

まさしく守るところと生かすところ、あとストーリー性があるとお褒めの言葉をいただきましたけれども、ストーリー性が大事だと思います。わかりやすい政策を伝えるということも、とても注意されていると思いますけれども、更に進めていただければと思います。

#### (大川原委員)

皆さん、こんにちは。株式会社キスケフーズで代表取締役をしております大川原と申します。

味の牛たん喜助という飲食店のほうは皆さん耳なじみがあると思うのですが、飲食店向けの業務用の牛たんを工場で作っているという製造物販の会社です。なので、最初に目についたのが、雇用の場の創出ということで、飲食店は非常にここ数年コロナで厳しい状況で、やっと今年の夏あたりからコロナの収束と言うか、落ち着いてきたタイミングと共に数字もやっと少し戻ってまいりまして、今だちょうど旅行の割引とかもあることで、だいぶコロナ前の水準を少し超えるレベルまで来ました。なので、工場のほうもやっと正式な稼働ができていくという状況ですので、今やっと正社員も含め求人積極的に出せるようになってきましたので、工場のほうの求人と、あとはできれば新規事業も富谷市でやっていきたいと思っておりますので、そういったところで新たに雇用の創出をして、富谷市に一企業として貢献していければなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### (風見会長)

産業面の復興と言うか、コロナ前より業種によっては少し再生しているところも出てきているのですよね。そういうところも含めて新しい事業のあり方というのも色々ご提案いただければと思います。

#### (小松委員)

こんにちは。私は富谷市内で野菜を作って地元の野菜を皆さんに食べていただくインショップ3店舗を展開しているグループの代表をしております。私も富谷市に嫁いで40年くらいになりますが、なかなか自分が富谷市についてどのくらいわかっていると言われると、なかなか難しいのですが、この中で、農家が新しい市民と古い町民との接点がなかなか無いので、ここに新たな空き家利活用、これで一応、農家も高齢化がありまして、なかなか後継ぎがないということもあります。そこで空き家も一緒に農地も一緒に嫁いで、富谷市として田んぼと美しい山とかを続けていっていただきたいなと思っております。そのようなものしか言えませんが、よろしくお願いいたします。

#### (風見会長)

空き家対策、これは全国的にすごく大事なことです。富谷市も手を付けられていると思いますけれども、この部分、更にストーリー強化していただきたいと思います。

### (清野委員)

先ほどご挨拶させていただきました七十七銀行の清野でございます。

この自治体評価のランキングを改めて見ますと、本当にプレッシャーが毎年かかるような思いでこれを待っているのかなと思っておりました。私も実は2ヶ月前に富谷支店に着任する時に、何が一番気になったかと言うと、富谷市さんの伸び率が、私が着任して大丈夫かなと、そういった不安があったのが印象としてありました。銀行として何ができるかなというところで、今とみやどさんであったり、とみふらさんとの関わりとか、市長をはじめ、非常に七十七銀行がやりやすくさせていただいておまして、創業の方の支援であったり、いわゆる資金供給はかなりやらせていただいているのかなというところを含めて、あと今、工業団地とか住宅もかなり増えてきている中での受け皿、住宅、かなり人が流れてくることが予想されますので、そのところの人の受け皿というのは、お金も絡むと思いますので、そういったところは積極的に絡んでいきたいと思っております。また、SDGsにつきましても、当行も企業さん向けの支援というのを定期的に行っておりますので、是非そういったところも富谷市さんと一緒に関わっていったら良いのかなと思っています。

### (風見会長)

金融、特に地元の金融というのは、産業の基盤ですので、引き続きご提案をいただき、またご支援いただければと思います。

### (富田委員)

皆さん、こんにちは。富田智子と申します。

オフィスシッチ、シッチというのは、湿っている場所という意味の湿地帯の湿地ですね。一人で家でインターネットとパソコンを繋いでいたら仕事ができるぐらいのそういう仕事をしています。基本的にはウェブの製作と運営管理、またデジタル版下なども製作しています。湿地帯の湿地を付けたのは、湿地は何かの物の種がぱっと蒔かれると、例えば鳥が糞を落としていたりすると、そこから何か芽が出てきたり、何かを育むような場所という風にイメージして、私も何か皆さんのビジネスのお手伝いができたら良いなと思って、今年で9年目になりました。この審議会は当初から参加しているのですけれども、どちらかと言うとビジネス面というよりは一市民のほうの立場として発言することが多かったかなと思います。今回、この市政運営報告を見させていただいて、全てが何となく自分に関わってくるものだなと思って、色々な実績が上がっていることをとても嬉しく思うし、市の皆さんの努力も垣間見えて本当にありがたいと思っています。一つだけ確認と言うか、聞いておきたいことが、この場は聞きたいことは聞こうというのがあるので、一つだけ質問させていただきたいと思いますが、ゼロカーボンシティのところなのですけれども、市民は何ができるかなと、インターネットでもよく見るのですけれども、一人の個人としたら一体何ができるのだろうかということをよく疑問に思います。電気の購入を変えとか、車を買って替えるとか、ちょっと大きなこと過ぎてしまって、でも本当に何かできることがないかなとも思いますので、市民に対してこのようなことをしてほしいみたいなことがあったら、是非教えていただけたらと思います。目の前にあるペットボトルも皆さんの心配りでありがたいなと思うのですけれども、実際いらぬのではないかとということもいつも思っていて、口に出せませんでした。でも今日は言うておこうと思います。

### (風見会長)

是非ご遠慮なく質問でも結構です。市長からお願いします。

### (市長)

ゼロカーボン戦略は結局、行政がやれることには限界があつて、事業所の皆さん、そして最終的には市民の皆さんの行動変容なのですよね。市民の皆さんお一人おひとりがいかに、例えば、今回アンケート調査に答えていただいた皆さんに、ノベルティとしていわゆるゼロカーボングッズということで、マイボトルとかエコバックを配り始めているのですけれども、そういったところに、いわゆるペットボトルからマイボトルを持って歩くような変容であったり、レジ袋を使わないでエコバックを持ち歩いていただいたりとか、あとフードロスも含めて、一人ひとりが市民皆で変えていかないとゼロカーボンは達成できないと思っているので、そこをこれからいかに市民の皆さんに共有していくかということが大事だと思って、今一つひとつの戦略をスタートしたところでございます。

### (風見会長)

今のゼロカーボンについて、私も仰せつかっていましたので一言申し上げますと、若生市長がおっしゃったとおりで、産業部門が大きいと言われがちなのですが、実際は民生部分、市民の方々の家庭の生活における変移、脱炭素というのがどこまで広がるかが、2050年、2030年に半減の目標がありますけれども、大きく国の違いが出ると思います。そういう意味では、日本人は学習するし、皆さん協力する国民だと思えますから、そういう意味ではモデル都市として、しっかり都市レベルで、富谷市全体がオール富谷になって、脱炭素社会への生活転換、行動変容を皆さんで是非牽引いただけるとすごく大きな変化が、こんなに変わるのだと、本当にちょっとした電気の使用量や循環型社会で、おっしゃったとおり、いるものを皆で分け合って使っていけばやはり下がりますよね。CO<sub>2</sub>というのは生産に対してもいけますし、そういう意味では今おっしゃったとおり勇気のある発言がこれから重要だと思いますので。

### (村上委員)

NPO法人SCRの村上と申します。

富谷市に住んで30年以上経つたのですけれども、NPOを始めるきっかけの一つに、住み続けたいなと実際思った時に、この富谷の自然豊かなところ、そして私は成田という団地に住んでいるのですけれども、そういう団地というところの視点でも、その美しい自然と富谷市がどうしてこういう風に発展しているのかという歴史に興味を持って、そこからスタートして、市民と共に、SCRというのは、スマイルの「S」と、チャレンジしていく「C」と、皆とつながっていくというリレーションという「R」の頭文字を付けたものなのです。それを実践していこうとして今年11年目になるのですけれども。自分が住民として、住み続けたいまちになっているという実感と、あと昨年観光交流ステーションのほうに店舗として入らせてもらったのですけれども、色々なお客さんが来て、沢山良い声を聞くと言うか、そういう実際に富谷って良いよねという、私もここに住みたいわという声を実際に聞く機会が多くなっていて、すごく嬉しいし、誇りに思うという風に感じる日々を送っているので、この総合計画を見ていると、先陣を切っているところもすごいなと思うし、理想のまちになってきているなと住民として感じるのと、周りから聞いているこういうところとか、すごくひしひしといつも感じて、今回この取組の中で私がびっくりしたのは、学校給食の完全無償化というところは、ほかの県が行っていくものなのかなと思っていたのですけれども、これもすごく最初にやってくれているなというのが、また住んでいて良かったなと思う一つになりました。あとはこれからも環境とかゼロカーボンに対して、富田さんもおっしゃったように意識を変えていくような、



市民からという、その実践に向けたら皆が協力してくれるようなまちになっていくのではないかなとすごくわくわくしました。

#### (風見会長)

村上さんがおっしゃっていた市民ベースの市民企業と言ったり、地域企業と言ったりするのですが、コミュニティビジネスという視点が、村上さんがやられていることがまさにそうで、地域の資源を使って、整備をして、起業をして、銀行さんに融資していただきながら皆で循環していく、その中でお金も資源も循環していくことがすごく重要で、それがサステナブルコミュニティビジネスにつながるので、そういった村上さんの試みをもっと広げて、多くの方が起業をどんどんされていることはすごいことなので、皆さんもう大都市を目指す時代は終わったのですよね。ではどのくらいの規模の都市にしたら良いのかということは、これから皆で決めていけば良いと思うのですが、大都市は急にやめられないので、もっと大変なのです。東京の再生とか大都市の再生も、地方都市で豊かな自然があるところでしっかり戦略を作れば、本当に皆さんが生活、幸福度が高いまちができると思いますので、引き続き戦略を点検していただけたらと思います。

#### (松田委員)

皆さん、こんにちは。黒川商工会の富谷支部の支部長を仰せつかっております松田と申します。

商業、商工の面から考えまして、今、富谷市では約 500 店の商工会の会員がおりまして、その中でもみやどでは 6 店舗頑張っております。また、昔と今の商売が急速に変わりつつありまして、大手スーパーが増えて、まちにあった個人商店が段々見当たらなくなって、道路沿いにはコンビニが占めているような状態になっています。富谷塾において、毎年 100 人、200 人の塾生がおりまして、その中で 40 人の方が起業しているということで、商売に対して何かしら若いうちから自分でやってみようという、そのきっかけ作りを若生市長が中心になってやっていただいて、大変良いことだと思っています。私も 23 歳の時から商売をやり始めまして、約 48 年経過しておりますけれども、何か困った時は、誰かが助けてくれると言うか、そういう経験が今までずっとありました。何もしないと自分で沈んでいきますけれども、手でも足でももがいていけば、溺れそうになっても、手足を動かせば何とか助かるということが私の人生の中でありました。これから大手企業が沢山富谷市に入ってきて、小さい商店がなかなか目立たなくなって、高齢化の場合もありますけれども、二代目三代目がそれを継げるようにできれば良いのかなと考えております。富谷塾、そして色々な催し物、商工会のお祭りとか、そういうものの中でも地域の商店街の人が中心になって盛り上げて、本当に富谷市は良いなと思えるところがあれば良いなと思います。野菜と同じように地産地消で、是非地域の、富谷市の方は富谷市の商店街で買っていただくと言うか、そういう雰囲気づくりと言うか、そういうものをこれから求めていければ良いのかなと思います。

#### (風見会長)

富谷らしい老舗ですよ、富谷の人々が培ってきた古典と言うか、そういう古い小さい店舗をどう残すか、事務局のほうでも是非取り組んでいただければと思います。

#### (本間委員)

では、学校教育の視点からお話させていただきます。富谷市では 2020 年に県内でもいち早く児童生徒に一人 1 台の端末を配布していただきました。先日、ミヤギテレビ様からご依頼がありまして、

3年経った今、デジタル教育はどのようになっていますかということで取材を受けました。今、子どもたちは授業の中で考えを共有ノートで素早く共有したり、実技教科でも作品やプレイを動画で撮影したりしながら、改善点を見つけて、主体的に学ぶという姿勢が育っています。今、うちの学校では子どもたちは毎日元気に登校していて、感染もそれほど広まっていないのですが、先生と子どもたちがオンラインで繋がって、朝の会、そして授業と、子どもたちと一緒にやり取りをしてみました。校内にも全てWi-Fiを整備していただいて、子どもたちにもタブレットを配布していただいて、先生と子どもたちが、オンラインで普段と変わりなく授業ができるということも本当に素晴らしいと思っています。富谷市では情報教育だけではなくて、不登校支援とか学力向上においても、県内でもトップランナーと言われていています。その温かいご支援に感謝して、私共、魅力ある学校づくりに努めていかなければならないと考えています。その魅力ある学校づくりの情報発信として、ホームページなどにも子どもたちの活躍の様子をこれからもお伝えして、保護者のご協力をいただきながら、是非富谷市で子どもを育てたいと思っていただけるように努めてまいります。

#### (風見会長)

教育は住みやすさの中で、特に家を選ぶ大事な要素ですね。そういう因子が高いと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

#### (草野委員)

富谷市の社会福祉協議会の会長をしております草野でございます。よろしくお願いします。

私もこの富谷に移って、ちょうど20年になるのですけれども、この住みやすさにどっぷりつかって、最近あまり考えることも少ないのかなと思っているのですけれども。富谷市の魅力は何だろうと数年前に考えたことがあります。こここのまちに来れば何かやらせてくれる、自分の持っている能力を生かしてくれる、そのような魅力があるまちではないのかなと、そこが皆さんを引き付ける要因の一つなのかなと。確かに自然とか利便性もありますけれども、やはり人を生かしてくれるということが一番の要素ではないかなと思っておりました。それにつけて、実は富谷と同じように一生懸命頑張っているまちが全国にあるのですけれども、石川県の野々市市という、聞いたことがございますでしょうか。人口が5万8千人くらいのまちなのですが、市でございますけれども。金沢市のベッドタウンでございます。ここも非常に今注目されておまして、よく雑誌にも載っていると思うのですが。やはり魅力のあるまちというのは共通点がありまして、一つは何かと言うと、ここも完全にベッドタウンですね。金沢という大都会を控えたベッドタウン。それからもう一つはここの特徴としまして利便性と言うか、大型ショッピングモールが集まっているのですね、買い物に非常に便利だということ。ただ富谷と比べて決定的に違うのは、ここは学園都市なのです。金沢工業大学と石川県立大学の二つがこの市にあるということで、富谷の場合も宮城県立大学が近くにありますが、そういう意味ではやはり若い学生が集まっているのかなと。よく一頃言われたのが、これからまちの発展、人口が増える要素には二つの要素があると言われました。一つはベッドタウンであること、もう一つは学園都市というのが浮上してきたのです。これがあると常に若い生徒たちが出入りして、切れることがないと言われてまいりました。それからもう一つ、このまちには鉄軌道が通っているのですね、北陸本線と北陸鉄道がこの地域を走っているということで。ただ、こういう要素がない富谷市がなぜこれだけ多く皆さんから住みよいまちだと言われているのかいうところも一つの目の付け所かなと思っています。

話は変わりますけれども、私は福祉をやっております、実は10月1日に地域福祉フォーラムというのをやりました。これはフォーラムですから、集いの広場という感じです。年に1回、皆さんに福祉のことを知ってもらおうと言うか、我々の事業の内容をもっと皆さんに理解してもらおうということで始めたのですけれども。今回の特徴は、従来と違いまして、4号線にあるイオンさんの売り場をお借りしたということなのです。それが今までとは決定的に違うところなのです。そこは残念ながらかなり空き店舗が出ておまして、そこを何とかうまく活用できないかということで、色々交渉しまして、イオンさんもOKしてくれまして、5店舗をお借りして、とにかく今までとは形が違うものやってみようということでございます。これが該当するかはわかりませんが、行動経済学では走りながら考えると、理論が先ではなくて、走りながらやってみるということをよく言われておりますので、こういう試みをやってみようかということで、特にこの中では、ファッションショーをやりました。福祉とファッションショーの何がつながるのだということがございますけれども、こういうコロナ禍の時代でなかなか皆さん家にいる時間が長くて、何をやっているかと言うと、整理整頓、断捨離ですね。今まで着ていない服がぞろぞろ出てきたと。こういう自分の持っている物を持ってきて、手作りのファッションショーをやるということを思いつきまして提案しました。皆がうけてくれまして、実行になったのですけれども、お陰様で多くの皆さんにご来場いただきまして、非常に活気を呈しまして、こんな風に今までしまっていた服の活用方法があるのかと非常に喜ばれました。そういう変わったことも取り入れていくということも、大きな目で見れば富谷の魅力につながるのかなということで、これからも色々な視点でつなげていきたいと思っております。

それからもう一つ、高齢者の居場所の問題ですけれども、ゆとりすととか街かどカフェとかありますけれども、問題は男性の居場所が少ないという話が、この前行政区長さんとの会議がありまして、言われてみれば最初は同じくらいいるのですけれども、いつの間にか男性がいなくなってしまうのです。なかなかそういう場には続けて入りにくいということもありますけれども、これは市にも提案なのですけれども、大阪の豊中市でやっております男性主体のめぐり農園というものです。住宅地の中の市有地を使って、男たちが集まってそこで野菜を作る、果物を作るという環境を是非、このようなことができるかどうかわかりませんが、これはひいてはスイーツにもつながりますし、富谷の農業にもつながるのではないかということで話をしていましたら、やってみたら良いのではないかと話が出たのですが、手強いなと思っております。そのようなことを考えながら、これも行動受け皿の一つかと思って、チャンスがあれば取り組んでみたいと考えています。

#### (風見会長)

多岐にわたるご提案ありがとうございます。事務局のほうでしっかりと受け止めていただければと思います。色々やらせてくれるところ、アンケートで確認したいと思うところですね。今後のアンケートで参考にいただければ、もしかしたらチャレンジ精神を見出してくれるまちというのはあるかもしれません。

#### (平岡委員)

行政区長会で会長をさせていただいております平岡といいます。よろしく申し上げます。

資料を見るからには、住みよさランキングが全て1位と言うか、結果だけではないのですけれども、もう何もやらなくて良いのではないかと思うほどの目標値、実績が全部出ていますよね。でも、言いづらいことを言いますが、職員も一緒になってやっていると思うのですけれども、これだけのことをするのは職員も大変だろうなという思いで、いつも行政側の立場についてしまいます。そこは市

長との良い関係ではあるのでしょうかけれども。これが一つです。やはり今はもちろん赤字は無いです。ただ心配なのは、交付金とかを全部使って事業はやっていますし、きちんとした予算も立ててやっているのでしょうかけれども、たぶん思った以上に予算は上向きと言うか、プラスになっていくような気がして、何年か後、少し心配かなというところもあります。ただ行事は一つひとつ全然違う取組ですので、そこの実績などを踏まえて理解はしているつもりです。ただ先ほどから出ている地下鉄とか、やり方色々あるのでしょうかけれども、30年後、40年後が一番大事だと思うのです。例えば図書館がもうじきできます。ほかにも色々できるのがわかっているのですけれども、今何か市民の皆さんに喜んでもらえるものをまず実現してほしいということです。それからゆっくりと市長の考え、市民の考えを踏まえてやっていただければ、これ以上に何も望むことはないのではないかなと思います。資料を見る限りでは、もう何もいないのではないかと思うくらいの評価はしたいと思っております。私たちは市民と一番密着する立場ですので、いつも十分に説明会とかで意見を聞いていただいておりますけれども、病院もそうですけれども、何か大きいものを誘致する時に、十分にこれからも色々意見を聞いていただけると思いますが、聞いていただくことと、ある程度聞いたら進めてほしいということを個人的には思っています。私は明石台に住んでいるので、当初は富谷というところにあまり関心が無かったです。申し訳ないのですが、こういう立場になって、旧富谷、旧などと言ったら悪いですが、新興住宅側が8割、9割近いですかね。当初は8割も新興住宅なのだからこちらに合わせたものやってくれたらという気持ちが一市民としては無くは無かったです。この審議会を通して、やはり残すものは残して、そこにプラスでやっていけたら良いのかなと。もちろん先を見込んでやっていることとはいえ、多少予算面において心配になったりする時もあります。これからもよろしくをお願いします。

**(風見会長)**

大変高いご評価をいただきました。

**(市長)**

財政運営のことを心配されていると思うのですが、我々は常に行革を行っていますし、新たな取組の給食費についても、富谷は子どもが多いので、無償化することによって毎年3億2千万円がかかります。それを生み出す時に財政側としっかりと協議をして、今後1年、2年ではなくて20年、30年先まで大丈夫かということを見通してやっていますし、図書館等複合施設も作るだけではなくて、作ったら維持費もかかるので、そういったところの財政運営も考えています。あと病院を誘致したら、それなりに支援することも含めて、常に20年、30年先、今日いる中学生の皆さんが不安にならないように、将来のビジョンを考えながら一つひとつ着手しておりますので、どうぞご安心ください。

**(風見会長)**

時間がもう来てしまったのですが、大変ご熱心にご意見いただいておりますので、このまま少し時間が超過することをご容赦ください。

**(増田委員)**

教育委員をしております増田です。

子どもにやさしいまちづくり宣言をしているということなのですからけれども、このやさしいという言葉が漠然としていて、私は子どもたちの可能性やたくましさを信じるということがすごく大事だと思

っていて、この春から富谷ユネスコ協会の会長をさせていただき、11月にそこに小中学生も加わっていただくというジュニア部を立ち上げました。これは子どもたちに自分たちがどのような未来を生きたいのかを自分たちでしっかりと選択してもらい、考えてもらい、それを大人が全力でサポートしていこうということです。そういうこともやさしさの中に含まれると思っております。それからユネスコ協会では、学校になかなか通えないお子さんを持っている保護者の方たちの語り合いの場を月1回設けておりまして、先月、宮城県に引っ越してきたばかりだという方がいらっしゃいました。本当は仙台市で家を探していたそうなのですが、西成田教室ができるということを知ってどうしてものことで富谷市に引っ越してきたというお話も聞いています。どうしても富谷と言ってもらえるようなことを、私たち住民も一人ひとりやれることをやっていきたいと思っております。

最後に富田さんが言ってくださったペットボトルのことなのですが、環境活動家の方たちを呼んでイベントを行った時に、ついペットボトルを用意してしまったら、それは要りません、マイボトルを持ってきましたとおっしゃったのです。この会が上位計画ということなので、ここで皆さんで富谷市の会議はペットボトルは要りませんと宣言しても良いのかなど。上の委員会で決まったので、ほかの委員会もそうさせていただきますと言っていたとしても、委員になっている方たちは何も異存は無いような気がいたします。

#### (風見会長)

事務局も聞いておりますので、ご検討いただけるのではないかと思います。私もいつもマイボトルを持っていますけれども、皆さんそういう時代かもしれませんね。

委員の皆様、本当にご熱心な議論ありがとうございました。最後に中学生代表ということで、このような会議で大変緊張されていると思いますけれども、緊張しなくて結構ですので、皆さん中学生のお声を聞きたいと待ち受けていますので、阿部さん、天谷さんから一言ずつ感想でも質問でもお願いします。

#### (阿部さん)

本日はとても貴重な体験をありがとうございました。今回の会議を拝聴して、私は建設予定の市民図書館に興味を持ちました。その一方で、私たち学生は車の運転をすることができません。なので、今回の資料にもありましたが、バスなどの公共交通機関も整備していただければ移動が簡単になり、ありがたいと思いました。私も大好きな富谷市の発展のために携われるよう心掛けてこれから生活していきたいと思います。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

#### (天谷さん)

本日はこのような機会をいただきまして、本当にありがとうございました。このように会議の中で大人の皆さんが富谷市の未来について真剣に考えている様子を目の当たりにして、本当に富谷市の未来が楽しみで仕方なくなりました。私自身、中学校の夏休みの宿題であった弁論文というものに、富谷市が住みこちランキング第1位であることを題材として取り上げさせていただき、クラス内で弁論を発表させていただきました。この富谷市の環境の良さ、そして人の良さ、迅速に対応して下さる富谷市について発表しました。この住みこちランキングが続くことを願って、私も中学生としてできること、まずは全校生徒でこの富谷市に住んでいることを誇りに思ってもらえることを、これからも伝えていきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。

**(風見会長)**

素晴らしい発表でこちらも感動しています。二人とも元気な未来のご意見をいただきまして、ありがとうございます。若生市長、最後に一言いかがですか。

**(市長)**

改めて今日は本当に貴重なご意見、短い限られた時間の中でお一人おひとりから貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。また、中学生を代表するお二人の本当に素晴らしい激励も含めてお言葉をいただきましてありがとうございます。今日いただいた一つひとつを、幹部職員全て揃っておりますので、しっかりと担当のほうにも伝えて、住みたくなるまち日本一を目指して更に頑張っていきたいと思えます。本日は本当にありがとうございました。

**(風見会長)**

最後に私からも、本日は本当に活発なご意見ありがとうございました。中学生諸君もこのように会議で熱心に未来のことを語ってくれているのだなという思いが伝わったと思います。そして、まちづくりは百年の計ですので、中学生の皆さんのまた次の子どもたちに伝えていくというバトンですので。最後に先ほど申し上げた田園都市について、庭園都市と言ったり、花園都市という風に訳されていて、イギリス人はガーデニングが好きで、家のガーデニングをそのまま、まちに広げたようなものなのですね。日本で言えば、華道、茶道があるので、庭づくりも皆さんが本当に住みたいまちを自分の家だけではなくて、まち全体に広げると言うのと、田園都市の感覚がよくわかると思うのですね。ロンドンの北にケント州というところがあるのですけれども、花のまちでガーデンオブイングランドと呼ばれています。皆で庭園都市を作るようなイメージで、この富谷を一緒に作っていければ良いのではないかなということを最後に申し上げたくまりました。

本当に皆さんの活発なご意見を事務局もしかと受け止めていただければと思いますので、中学生のお二人も本当に貴重なご意見ありがとうございました。改めて感謝申し上げます。それでは、皆さんのご意見を基に、また更に富谷市の未来が発展していくと思えますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思えます。本日は活発なご議論ありがとうございました。

**6. 閉会**

以上